

ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会
 洲本市中川町中川原 28 番地 1
 TEL: 0799-25-8550
 FAX: 0799-25-8551
 ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/fukuro/>

炊き出し訓練



淡路ふくろうの郷では毎年、炊き出し訓練を行っています。11月11日朝、担当の職員が集まり各班に分かれ準備をしました。地下室の非常用タンクからポリタンク25リットルの水4杯を汲みに行きます。ポリタンク一杯の水を持ち階段を上るのはとても大変でした。

並行して食材の準備とかまど作
 りを行いました。入居者、職員合わせて60名分の昼食を作りました。食材も洗い切りそろえます。かまどはブロックを囲み薪を並べ着火します。ごはん、おかゆ、カレー用に大きな寸胴鍋を設置します。薪は勢い良く燃えるので火力の調整に職員が付きつきりです。味見と炊き具合を確認し、後半は火を落として蒸らしに時間を置きました。炊き加減は程良く、普段の食事と変わらない出来栄でした。作業は職員が連携してスムーズに進みました。災害はいつ、どのような状況で起きるかわかりません。炊き出しは食料、器具の確保と職員の経験が必要であることを痛感しました。

(生活援助係 酒井英雄)



淡路ふくろうの郷では毎年、炊き出し訓練を行っています。11月11日朝、担当の職員が集まり各班に分かれ準備をしました。地下室の非常用タンクからポリタンク25リットルの水4杯を汲みに行きます。ポリタンク一杯の水を持ち階段を上るのはとても大変でした。

10月25日、優生保護法問題全面解決をめざす全国集会在、東京日比谷公園大音楽堂で行われました。イメージカラーのピンクか緑のものを身に着けて全国から1300人以上の人が集まりました。兵庫県からは淡路2名・兵庫県聴覚障害者協会から6名・優生保護法による被害者とともに歩む兵庫の会から6名参加しました。

優生保護法問題の全面解決をめざす 10.25 全国集会
 ～命に優劣はない！ 優生思想を断る切り、差別のない未来へ！～

2022年10月25日(火) 12時30分～15時 会場：日比谷公園大音楽堂(日比谷野音)

「一不良な子孫の出生を防止する」優生保護法第1条(目的) この法律により、国から強制的に不妊手術や中絶手術をされた人たちがいます。国は今もって、被害者すべてに謝罪も補償もしていません。国が障害がある人を「不良」と決めつけたことで、障害者差別は、根強く残っています。

日比谷公園大音楽堂(日比谷野音) 〒100-0002 東京都千代田区日比谷公園1-5

イメージカラーは、ピンクか緑のものを身に着けてください。当日は、優生保護法問題の全面解決をめざして、連帯のあいさつ、アビニ文楽舞、ライブパフォーマンスなどを行います。

お問い合わせ先：優生保護法問題の全面解決をめざす全国集會事務局 TEL: 03-5561-1111

「不良な子孫の出生を防止する」 優生保護法第1条(目的)

この法律により、国から強制的に不妊手術や中絶手術をされた人たちがいます。国は今もって、被害者すべてに謝罪も補償もしていません。国が障害がある人を「不良」と決めつけたことで、障害者差別は、根強く残っています。

ほとんどの方が、十分な説明を受けずに家族から病院に連れていかれて、手術を受けさせられ、傷跡は今も残っている。普通なら傷跡も残らないように綺麗に治るはずなのに・・・はつきりと残っている。「私の体を元に戻してほしい!!」と、涙ながらに訴える原告団の生の声を聞いて、私も涙が出てきました。

淡路ふくろうの郷でも、子供を産めなかった人は何人かいます。子供がいる人から「あなたは子ども何人？」と聞かれ、つらそうにすることがあります。

皆さん高齢で、早く解決したいと訴えています。実際に全国の原告の5人が亡くなりました。早期解決に重要な情報である手術のカルテも、現在分かっている範囲で、カルテがある被害者は25000人の内31名分だけです。都道府県に提出された殆どのカルテが、黒塗りか破棄されているそうです。弁護団より、最高裁に向けてやるべきことも報告されました。①被害者の掘り起こし②国民の声③ネットの利用④傍聴にたくさんの参加、皆さんの協力が必要だということです。

(淡路聴覚障害者協会会長 淡路ふくろうの郷職員 伊達美紀)

令和6年度介護保険改定に向けた厚労省の介護改悪の中身は①利用料2③3割負担の対象拡大②要介護1、2の保険給付外し③ケアプラン有料化④保険料納付年齢引き下げと利用年齢の引き上げ⑤補足給付資産要件に不動産を追加⑥65歳以上の「高所得者」の保険料引き上げ等。12月中に社会保障審議部会が改悪案をまとめる。高齢者の生活を圧迫させ、本来あるべき高齢者福祉の姿からかけ離れていく。

ふくろう物語 武部登喜子様

縫製・料理上手な登喜子さん

昭和9年11月22日生まれの5人兄妹の4番目です。何事も一生懸命に取り組まれるバイタリテイ溢れる米寿(88歳)です。生まれも育ちも神戸です。戦前に神戸ろう学校に母に連れられて通い、高等部を卒業しました。家族の中で聞こえないのは自分だけでした。身振りが口形を読み取ったりして会話していましたが、通じないこともあり、なかなか深い話までできませんでした。

その後、ろう者の集いで夫と出会い50歳の時に結婚しました。神戸から住まいを加古川に移して生活を始めました。夫との思い出は長崎に旅行に行った事で、夫の実家があり車で2度行きました。その時に夫と食べたラーメン(長崎ちゃんぽん?)が一番美味しかったです。夫は優しくて頭が良かったが、お酒が好きだったので身体を壊し、9年前に亡くなりました。

姪御さんに話を伺うと、リュックに手料理を詰め込んで来てくれて、かわいがってくれた。洋服も作ってくれて、ミシンの使い方を教えてくれたのは、伯母の登喜子さんだったそうです。明るくておしゃれな伯母の家に遊びに行かれていたそうです。



縫製が好きだった事もあり、20歳を過ぎた頃より靴や服の縫製の仕事につき40歳頃まで続けましたが、当時の給料はとて安かったです。

その後、ろう者の集いで夫と出会い50歳の時に結婚しました。神戸から住まいを加古川に移して生活を始めました。夫との思い出は長崎に旅行に行った事で、夫の実家があり車で2度行きました。その時に夫と食べたラーメン(長崎ちゃんぽん?)が一番美味しかったです。夫は優しくて頭が良かったが、お酒が好きだったので身体を壊し、9年前に亡くなりました。

姪御さんに話を伺うと、リュックに手料理を詰め込んで来てくれて、かわいがってくれた。洋服も作ってくれて、ミシンの使い方を教えてくれたのは、伯母の登喜子さんだったそうです。明るくておしゃれな伯母の家に遊びに行かれていたそうです。

歯科衛生士指導～口の健康は体の健康～

毎月2回、協力歯科病院：奥井歯科から歯科衛生士に来ていただき、口腔ケアの指導を受けています。口腔トラブルのリスクがある方を優先して継続的に見ていただいています。

今回、普段口から食事をされない寝たきりの方を見ていただきましたが、以前より歯茎の腫れなどが良くなっているとの評価を得ました。1本だけ残っている歯は根本の隙間に汚れが溜まりやすいので柔らかめの小さな歯間ブラシで磨き、裏側などをケアミラー(鏡)を使って確認する、舌や歯茎の広い部分はガーゼやスポンジなどを使って磨く、というように状態に合った道具を使うことで口腔内の清潔を維持しているよう指導いただきました。

口腔内のトラブルや細菌感染が、身体全体のリスクにつながることもあり、今後も丁寧な口腔ケアを続け、歯科衛生士からの確認と指導によりその質の向上につなげていきたいと思ひます。

(星海ユニット 川満和則)



上から 歯間ブラシ、ケアミラー、スポンジ



ご夫妻で旅行先にて

自宅で暮らしていましたが、体調を崩され、淡路ふくろうの郷に令和4年5月9日に入居されました。当初は居室のベッドで過ごす時間が長かったが、人と交流をしたい、自分で車椅子も漕ぎたいと自発的な場面が見られるようになってきました。その思いに職員が応え、今後も登喜子さんのやる気を活かした暮らしを続けられるよう支援していきたいと思ひます。(生活援助係 木下卓幸)

いつもご支援ありがとうございます

- ・高知県の上村様より新米30kg
- ・平岡農園様よりみかん2ケース

田畑の恵みをいただき、これからも元気に過ごしていただきたいと思ひます。

高齢者施設におけるリスクマネジメント —ハラスメントや過度なクレーム・苦情、BCP含めた対応—

びわこ学院大学教授、鳥野財 団理事長、福祉リスクマネジ
メント研究所長の鳥野猛先生
による、淡路ブロック老人福祉
事業協会主催のリスクマネジ
メント研修にZOOMで参加しまし
た。

令和4年6月1日から労働
施策総合推進法の改正で「ハラ
スメント防止措置」が義務化さ
れました。研修などでの周知と
啓発、相談窓口の設置、相談後
の流れなど体制を整える必要
があるとされています。

ハラスメントにも種類がた
くさんあり、相手がそう感じた
らセクハラ、パワハラであり、
感じ方も様々なので確認と対
応に戸惑うこともあります。

また、管理者として確認と対
応が必要になったときに面談
は複数人で実施すること。電話
などは録音しておくこと。録音
は相手に断る必要はなく、自分
の発言に気を付けるために行
うものであること。面談内容な
どは文章で議事録化しておく
ことなど介護事故裁判やクレ
ームや苦情に対しては初動対
応が重要だということでした。
近年は介護現場での労災に
職員の高齢化によって職員の
転倒が18%と増えていると知
り、日々の業務でも危険の見
える化、滑りにくい靴・腰痛予
防対策を再認識しました。

また、BCP（事業継続計
画）・災害についてはハザード
マップに基づいての作成がさ
れていますが、「線状降水帯に
よる水害」についても考える
必要があると聞き、高齢者施
設におけるリスクマネジメント
トとは幅広く多岐にわたり起
こりうるリスクの程度を予測
して対応できる体制をとって
備えることが重要と学びまし
た。

職員みなで話し合い、心
身ともに健やかに働きつづけ
られる職場環境をつくって、
安心して利用していただける
施設になるように努めていき
たいです。

(淡路ふくろうの郷
副施設長 渋谷裕子)

～ お知らせ ～

次なる波の発生と新型コロナと季節性インフルエンザの同時流行が懸念されています。入居者・職員については11月末にインフルエンザ予防接種を終えました。

面会についてはテラスの窓ガラスを開けての対応を始めていましたが、感染流行に備えて閉じての対応に変更させていただきます。

短期間になり誠に申し訳ありませんが、ご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

12月・1月ふくろうの暮らし

- 12/17(土) ふくろう大学 書道講座
- 12/20(火) ふくろう大学 絵手紙講座
- 12/21(水) 餅つき・来年の漢字
- 12/23(金) 料理講座
- 12/28(水) ふくろう喫茶
- 1/ 1(日) 互礼会
- 1/ 4(水) 誕生会
- 1/10(火) ふくろう大学演劇講座
- 1/11(水) 手話講座
- 1/15(日) とんど焼き



『排泄ケア見直しませんか』(10月28日)

リブドゥコーポレーション主催のオンラインセミナー「排泄ケアを見直しませんか」に参加しました。排泄が原因となる皮膚炎や褥瘡等のスキントラブルの仕組みや尿取りパットのメーカーによる正しい使い方について学びました。特にパットの当て方については自分が過去に学んだ方法と違っており、最新の方法を学ぶことができました。

オンラインでの研修に対して、「話を聞くだけで退屈」というイメージを持っていましたが、今回の研修ではこちらに問いかけて来るような話の組み立てで、常に考えながら研修を受けることができました。

また、小まめにトイレ休憩を挟んだり、寸劇による実例を交えた排泄介助のレクチャーが研修の合間合間に行われるなど、研修の構成自体が参加者を退屈させないようにしており、研修の内容以外にも感心させられる研修でした。

数年ぶりに外部の研修に参加しましたが、学びや気付きが多く、自分が普段行っている介護のやり方を振り返る機会にもなるなど、研修に参加する重要性を改めて感じました。コロナ禍が続く中、なかなか難しいかとは思われますが、多くの職員が様々な研修に参加できるようになればと願うばかりです。

(生活援助係 岡本洗一)

**淡路聴覚障害者
センター** 便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館 3階

**頑張っています
吉川 美夜子さん**

神戸ろう学校を卒業し、和裁の仕事などをされた後、淡路に嫁いだ吉川さん。今年75歳になります。多趣味で若い頃から家事や子育てをしながら木彫りや生け花など楽しんでおられました。



▲清掃に励む吉川さん

さんからお手紙をいただきました。

よく気が付き助かっている。長く仕事を続けてほしい。

☑お世話になつております。

平成19年より老人保健施設ひ調整しながら、長くお仕事を続けていただけたらと思つています。

主な業務は、廊下・トイレ（老人保健施設ひまわり 眞野美砂子）

15年前から老健施設で働いています。入所されている方が声をかけてくれたり交流もあり楽しいと言われています。腰が痛いし、辞めたいと言いながらも、職場からは是非続けてほしいと頼まれ、勤務時間数を減らして続けることになりました。

今回ご紹介したいと思ひ、職場訪問をお願いしましたが、コロナ禍で施設に入る事ができないとのことでひまわりの職員飼っているカナリアの事も

にかけていただき、新鮮な野菜まで差し入れてくれる心優しい方です。

仕事帰りは、事務所に手を振って帰られ、無事にお仕事を終えたのだと安心していますが、最近では足の調子が思わしくないとお聞きし、職員も心配しておりました。

～手話はいのち～「聴覚障害者とは」

手話奉仕員養成講座集中講座 (11/6)

兵庫県聴覚障害者協会理事で、当法人理事の仲井正氏に「手話は命」と題して差別・偏見だらけのろう学校時代に身に沁みついた健聴者への敵意が、ある時手話通訳者を見て自分の間違いに気づき、以後健聴者と共にろう者が住みやすい社会を作るためにろう運動に頑張ってきたとのお話がありました。



参加者の感想

◆ろう学校での口話教育が厳しく、楽しく会話できる環境であるはずなのに、先生の目を気にしながらの学校生活内容を初めて聞きました。今は健聴者でも手話ができる人がいたり、淡路ふくろうの郷のような施設や、聴覚障害者センターのような相談できる場所ができたりと、暮らしやすくなったのではないかと思います。しかし、不妊手術を受けさせられた人たちが今も苦しんでいることにつ

いて初めて詳しい話を聞き、兵庫県でそのようなことが昔行われていたことに驚きました。

(藤原愛梨)

◆当時の教育の厳しさや理不尽な様子をお聞きし、とても胸が苦しくなりました。と同時に



“手話”の存在の大きさやその役割の大切さに改めて気づかされました。ろう者と健聴者をつなぐ大切な“ことば”である手話の勉強をこれからも頑張ろうと思ひました。(宮崎恵美子)

◆こういう機会がないと聞けないお話でした。もっとお話しが聞きたいと思ひました。色々参加して人との出会いに感謝したい。手話は楽しいです。続けていきたいです。(馬野眞衣)

(感想は一部抜粋です)

火災避難訓練を実施しました

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



11月21日(月)午後1時45分
から、中川原地域ふれあいセンターに
て地域住民・利用者・職員・洲本市
各49名が火災避難訓練を実施しま
した。

まず、当センター厨房室で出火か
ら利用者・職員が「火事だ」と気づ
き、消防署へ連絡します。そして皆
さんに火事であることを知らせま
す。それを聞いた支援員が消火器を
もって駆け付けて、初期消火を試み
たが消せないと判断し、利用者の
方々の避難誘導を開始します。

おのころの家利用者・デイ利用者
たちは安全帽子を着用して職員の
誘導で避難することができました。
各事業所の職員が点呼を行い無事
を確認して、隊長に報告して避難訓
練は無事終了しました。
引き続き訓練を重ね、活かせるよ
う努めていきたいです。

(防災担当 橋詰)

農業班・おのころ屋の取組み

農業班は、10月28日、タマネギの苗は順調に
育ち、定植が始まりました。利用者の藤木さん、赤
井さんは苗植えを作業しています。例年のことなが
ら、定植の時期になるとみんなはりきって頑張っ
ていますが、来年度のタマネギの作付は、利用者の体
力も考え今年の約100aから約80aに減らす
ことにしました。

または中川原町厚浜の人に依頼され、地域支援で
の刈り草集めは、みんな頑張っているが毎日とな
ると疲れがでてきますので、間に他の作業を取り入れ
ながら、地域支援を続けていきたいと思ひます。



おのころ屋は、移転したことにより、地域の方々
とも直接お話しできる機会も増え、「おいしいクッ
キーをいつもありがとう。」と声をかけていただ
くことも多く、とても励みになっています。

菓子パンは6月16日から製造を開始しました。
当面は店舗販売ではなく、移動販売の箇所を少し
づつ拡大し、パン・焼き菓子セットのチラシを配
布し販路拡大を進めています。また、常連であ
ったお客様より注文を受け、配達にて対応し
ています。

新規利用者を確保し、今後更に地域活性化を
目指していきたいと思ひますので、よろしくお
願いいたします。

(おのころの家管理者 橋詰・職員一同)

神戸長田ふくろうっこの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1

〒653-0836
電話 078 798 7940
FAX 078 798 7941

緊張したけど、頑張った!

11月27日(日)神戸市教育会館で3年ぶりに第2回神戸手話フェスティバルが開かれました。

神戸平野ふくろうの樹の入居者の横山真裕奈さんと職員の長澤理佐子は、ドキドキしながら初出場しました。

発表するテーマは「SMILE〜晴れ渡る空のように〜」です。音声や音楽などの音響を使わないサイレントの手話歌に初めて挑戦しました。皆様の温かい応援のおかげで最後まで心から楽しんで、今までの練習の成果を発揮できてよかったです。



▲舞台発表する横山真裕奈さん(左)、長澤理佐子(右)



▲応援に駆け付けた職員と一緒に心はひとつ!

横山さんは、「高校生の時、文化祭での舞台上に立ったことがありましたが、卒業後、たくさんの人の前に立つ機会がなかったので、出番が来るまでに緊張して歌詞のメモを何度も確認したり、だんだん頭痛と手指が冷たくなってきている状態でステージに上がり、体がガチガチでした。

いざ、手話歌が始まると緊張も少しずつほぐれてきました。痛恨のミスもありましたが、最後まであきらめずに頑張ってこれてよかったです。」と話されました。

応援席には、職員が駆け付け、コンサートで使われているような目立つ応援グッズで応援してくれ感無量でした。

最後にほかの出場者は大変すばらしくて、たくさんの感動をいただき、貴重な機会をありがとうございました。

(神戸平野ふくろうの樹 長澤 理佐子)

秋の味覚・芋ほりに いってきました!

きれいな秋晴れの中、車で揺られながら神戸市北区にある大沢農園に放課後デイふくろうっこの子どもたちといってきました!

この農園はフラワーパークの近くにあり、無農薬・オーガニックの農園です。芋ほりはバツタがいたり、ミミズがいたりして少し驚きながらも、スコップで土起こししてもらったところを手で掘りました。

大きなものや細長いものなどたくさん芋が掘れて歓声が上がりました。掘った芋は子どもたちが各



▲ドキドキしながら掘っています♪



▲たくさん芋がついたつるを引いて喜ぶふくろうっこ

自、家に持ち帰りました♪
残った芋は冬休み中の12月26日(月)に「さつまいもクッキング」を行います♪何が作れるかなあ〜さて、今年も冬休みが近づいてきています。ふくろうっこの達にとってふくろうの杜で過ごす3回目の冬休みです。初詣やアイススケート、お餅でアレンジ料理など企画が盛りだくさん!

それぞれ学校が違ってなかなか出会わない子どもたちですが、この冬休みを通して学び合い、育ちあいの輪が広がることを願って、今日も楽しく過ごしています。(放課後デイサービス 山本芙由美)